

# 共同体

知っておきたいキリスト教のこぼれ (57)

「共同体」という言葉は新約聖書(新共同訳)には出てきませんが、旧約聖書には何箇所か出てきます。旧約聖書で共同体と訳されているヘブライ語「カーハール」のギリシア語訳は、「エクレシア」です。



この「エクレシア」は、新約聖書(新共同訳)では「教会」と訳されていますので、聖書の中で教会と共同体とはかなり近い意味を持つ言葉だといえるでしょう。

さて、「共同体」という日本語は、共通の利益を持つ集団をあらわします。一般的には、地縁や血縁、社会的な人間関係を基盤として形成された集団のことを言います。町内会や親族、会社などでしょうか。

しかし旧約聖書では、神さまとの契約に基づき、神の民となるために呼び集められた人々を指して「共同体(カーハール)」と呼びます。ヨシヤ記 24 章 24 節には「シケム契約」の場面が出てきますが、ここでイスラエルの民は、「わたしたちの神、主にわたしたちは仕え、その声に聞き従います」と神さまに誓います。その結果、イスラエルの民は神さまと契約を結び、宗教的な共同体とされました。

また新約聖書では、イエス・キリストの出来事を通して神さまに招かれ、イエス様を主(救い主)として告白した人々の集まりを「エクレシア」と呼びます。新共同訳聖書では「教会」と書かれていますが、それはすなわち「キリストの共同体」ということなのです。

わたしたち一人ひとは、イエス様のみ名において集まり、共に歩んでいます。それぞれがキリストの体の枝として、生かされているのです。そしてわたしたちは、神さまと個人的なつながりだけではなく、共同体の一員として神さまと関わっていることも、忘れないでいたいと思います。

次回は「キリエ」です。お楽しみに。